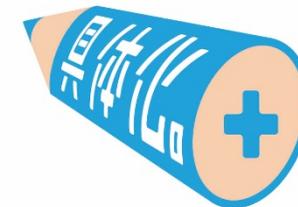


PROJECT 2020+



2018年上期実績と下期の課題

2018年第2四半期決算説明会資料

SHOWA
DENKO

2018年8月9日

昭和電工株式会社

代表取締役社長CEO 森川 宏平

1.2018年上期実績/2018年通期見通し

2.Project 2020 + 3年累計の進捗状況

3.個別事業の実行課題

4.次期中期経営計画 基本イメージ



◆ 上期2期連続最高益達成、中間配当20円決定

(単位:億円)	2017年 上期実績 a	2018年 上期実績 b	増減 b-a	2018年 上期予想*1
売上高	3,722	4,558	+837	4,520
営業利益	350	781	+431	680
経常利益	222	778	+556	645
親会社株主に帰属 する四半期純利益	78	581	+503	430
中間配当	0円	20円	+20円	20円*2

*1 2018年5月9日発表

*2 2018年5月29日発表

2018年通期業績予想

昭和電工株式会社

◆ 通期2期連続最高益達成へ、増配→90円予想

(単位:億円)	2017年 通期実績 a	2018年 通期予想*1 b	増減 b-a	2018年 前回予想*2
売上高	7,804	9,850	+2,046	9,350
営業利益	778	1,700	+922	1,370
経常利益	640	1,670	+1,030	1,315
親会社株主に帰属 する当期純利益	335	1,150	+815	850
年間配当	50円*3	90円*4	+40円	90円*4

*1 2018年8月8日発表

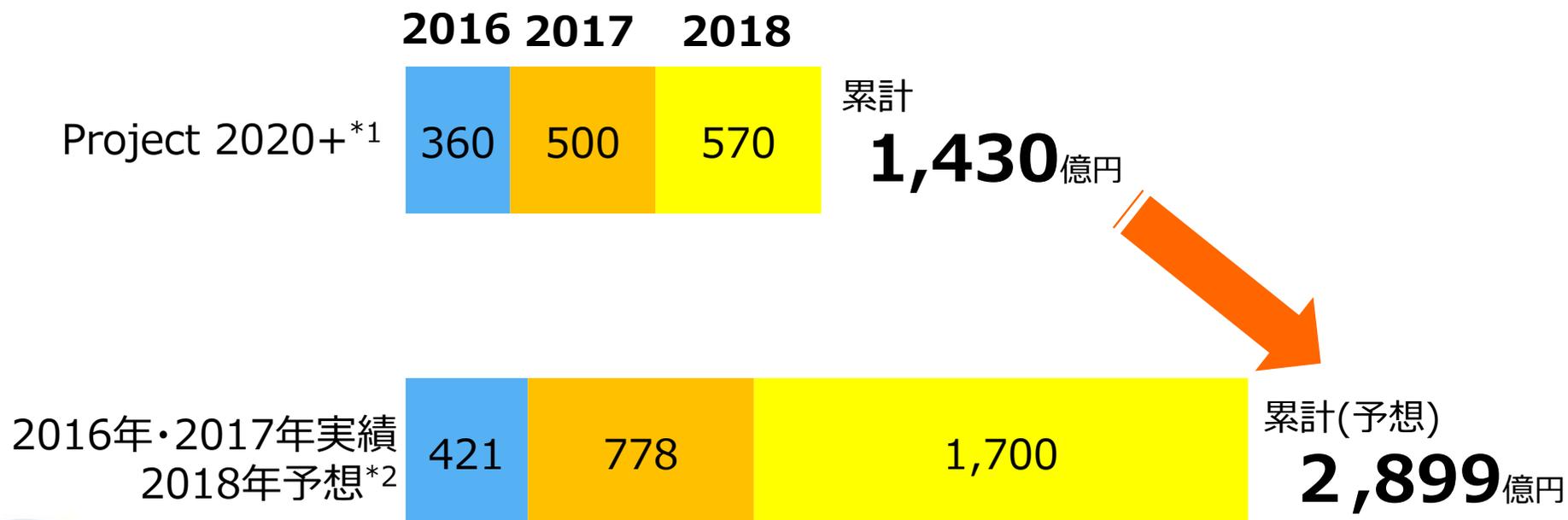
*2 2018年5月9日発表

*3 2017年5月11日を基準日として実施した1株当たり30円の配当は含まず

*4 2018年5月29日発表

Project 2020+ 3年累計営業利益進捗

◆ 収益性の向上を前倒して実現

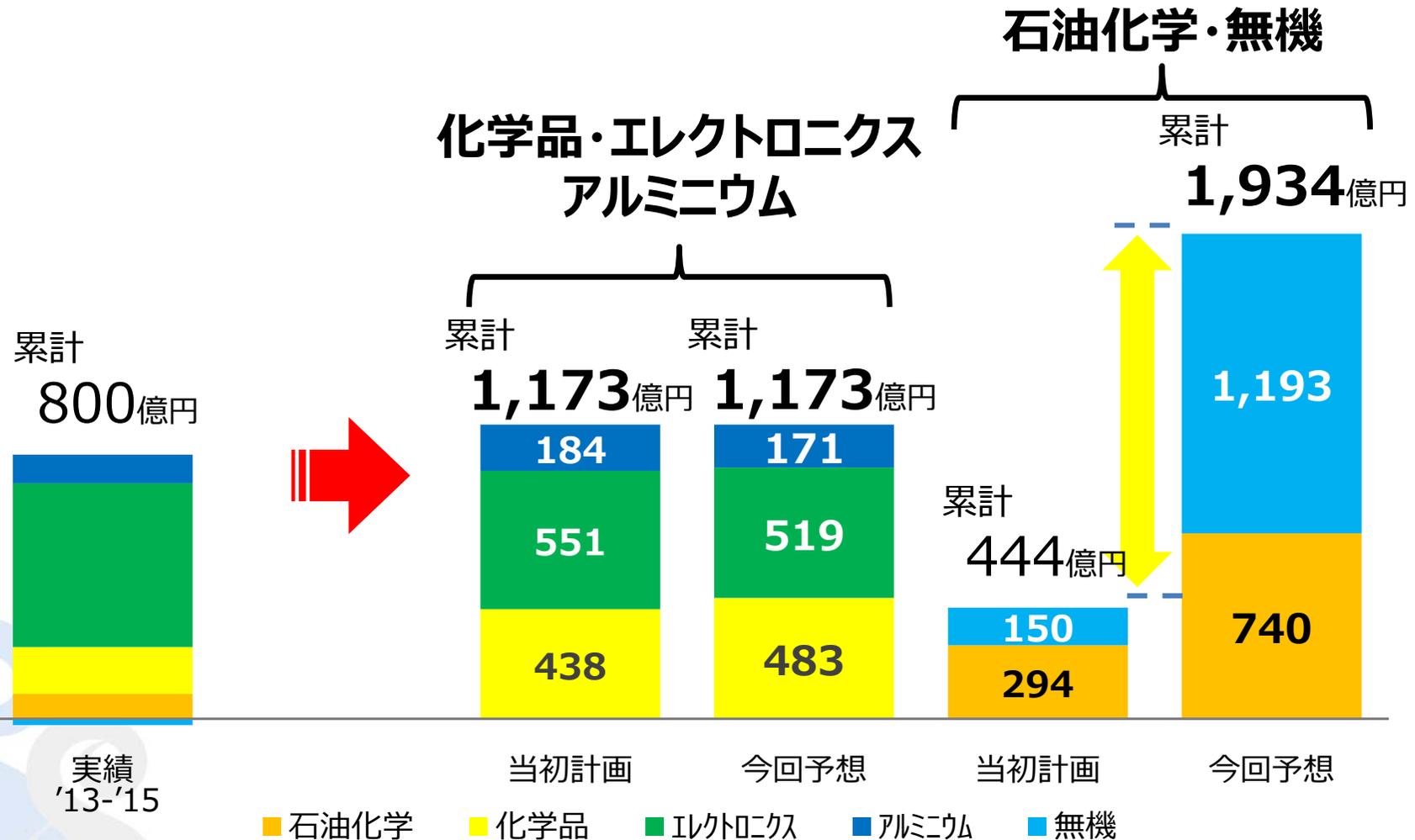


*1 2015年12月11日発表

*2 2018年8月8日発表

セグメント別3年累計営業利益進捗

◆ 石油化学・無機以外のセグメントの収益性も安定・向上へ



注:調整は含まず。また2017年にリチウムイオン電池材料事業を「その他」セグメントから「エレクトロニクス」セグメントに移管。6

◆ 持続的成長に向け、戦略的強化策を着実に遂行

□ 成長加速・優位確立事業

積極的な投資による拡大

□ 黒鉛電極PMI

統合効果顕現

□ 構造改革

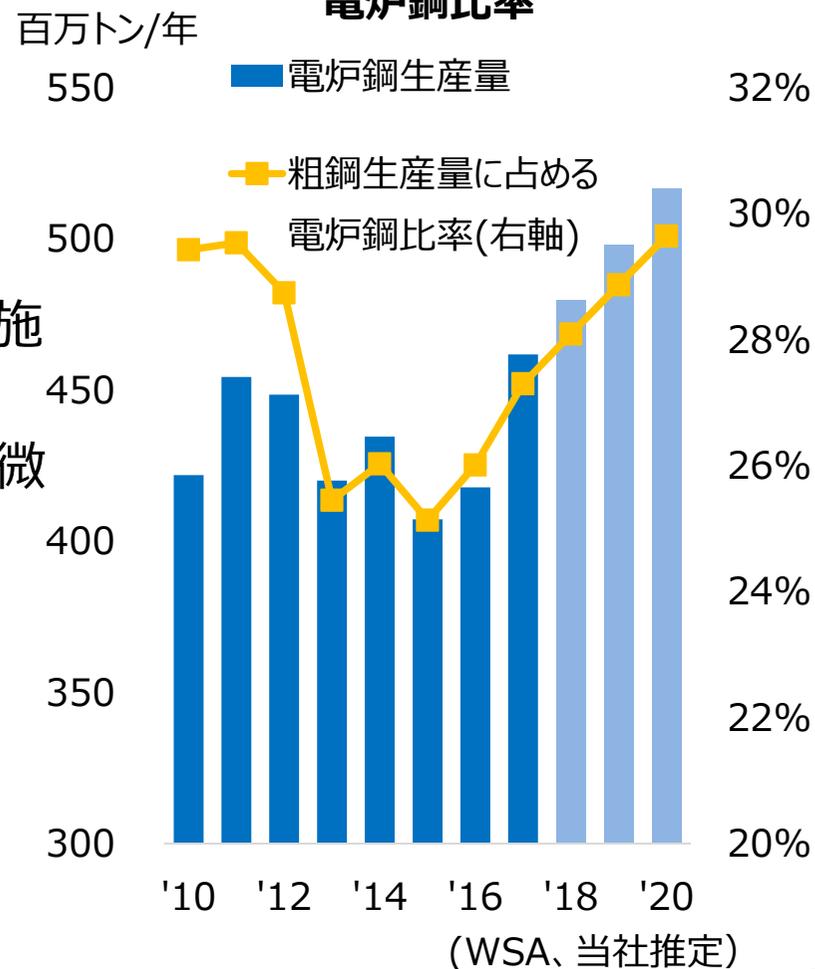
ICA株式譲渡合意



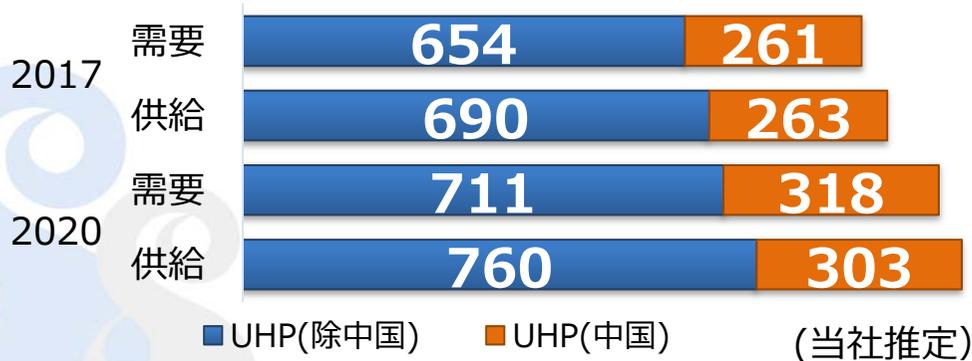
◆ 電炉向けUHP需給→タイト感継続

- 電炉鋼生産量は拡大継続
⇒黒鉛電極の需給タイト感継続
- 黒鉛電極国際市況
前年同期比大幅上昇
- 原料NCタイト感継続
⇒原料NC市況も上昇、安定調達実施
- 中国増強計画
⇒ HP主体、UHP需給への影響は軽微

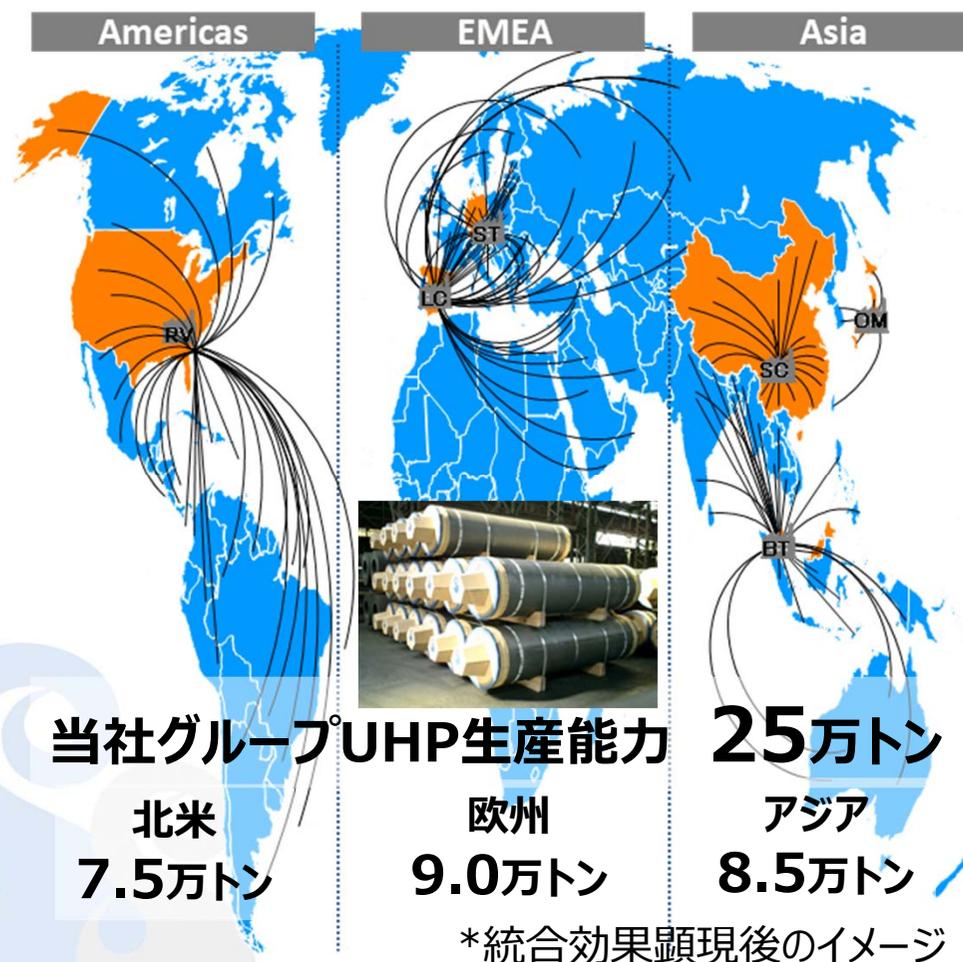
電炉鋼生産量と粗鋼生産量に占める電炉鋼比率



黒鉛電極(UHP) 世界需要・供給予測 (千トン/年)



◆ ダントツNo.1のコスト、お客様にとっての “Value in use No.1” 達成



BIS40 (Big Integration Strategy)

- 地産地消の拡大
- NC調達交渉力アップ
- 販売ルート統一
- 管理部門 機能統合効率化

統合効果コストダウン目標

40億円



2018年 **30%超**実現へ

◆ 需給

- 東アジアの旺盛な需給関係継続
- 国内定修集中年⇒フル稼働継続
- 米シェール由来石化製品(樹脂等)
年末アジアに一部流入
⇒旺盛な需要で影響は限定的

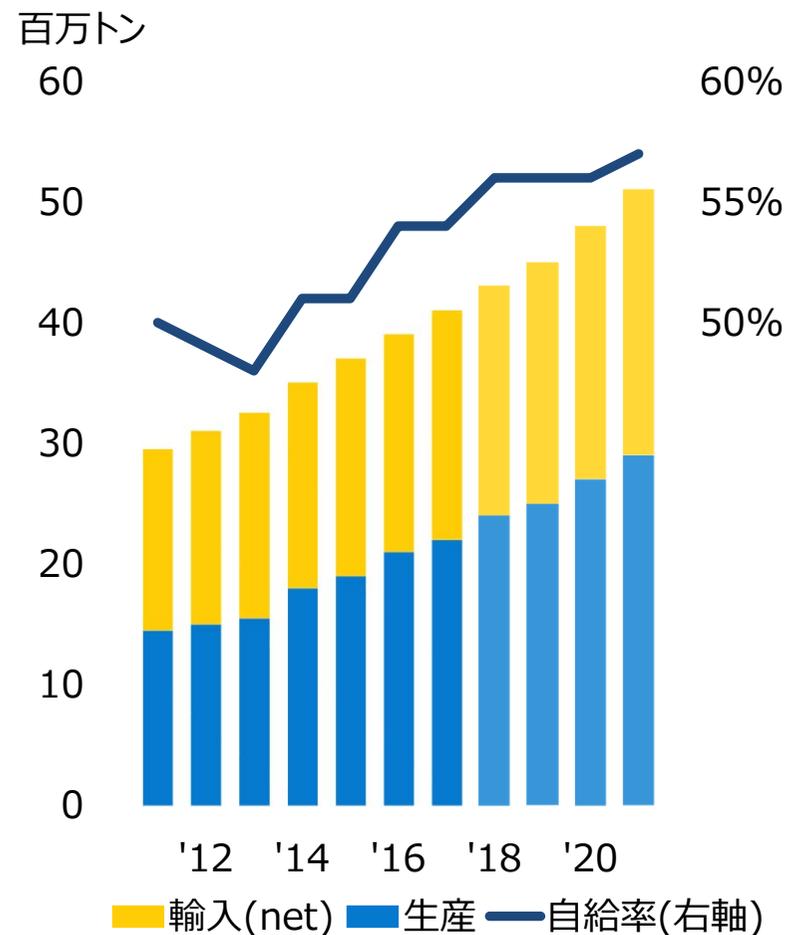
◆ 上期施策

- 4年連続フル運転完遂
- 定期修理完工
- NPAC能力増強(18.2千t/年)

◆ 下期施策

- 石油精製との連携：**CROS連携採択**
- フル稼働フル販売体制確立
- エチレン誘導品事業化推進

中国エチレン需給動向



◆ 将来も増大するデータの主要保管先 → 持続的に収益を創出する中核事業

◆ 需給

- データセンター・サーバー向け
ニアライン需要、大幅に拡大

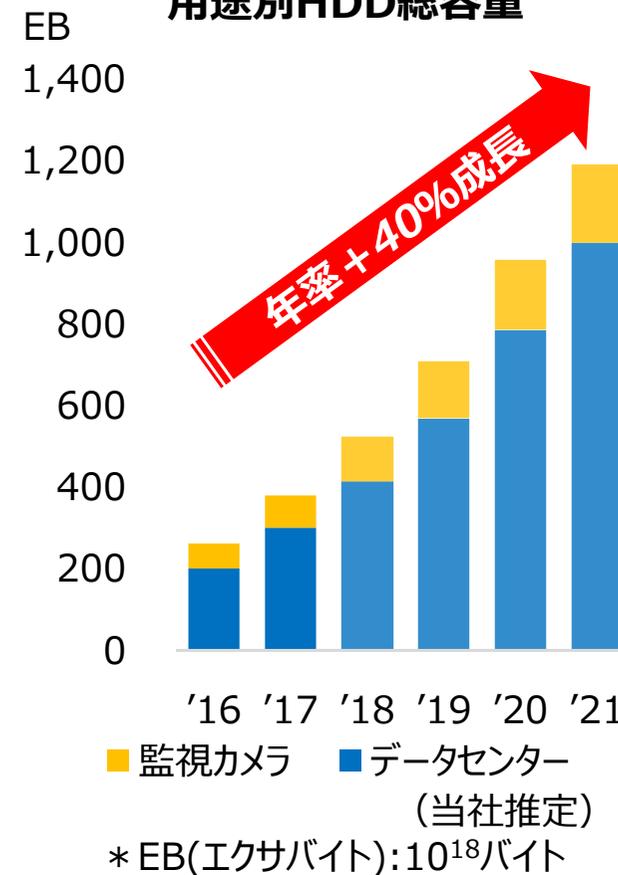
◆ 上期施策

- 次世代大容量品の出荷本格化
- 2.5" 1TB/pl
- 3.5" 1.5TB/pl ⇒ ニアライン向け大容量
HDD(14TB)に出荷開始

◆ 下期課題

- 3.5" PMR次世代品開発(1.8TB/pl)

用途別HDD総容量



◆ 需給

- 半導体(メモリ中心)・FPD市場堅調
- 東アジア・半導体メーカー新增設継続
- 3D-NAND量産進展
⇒エッチングガス需給タイト継続

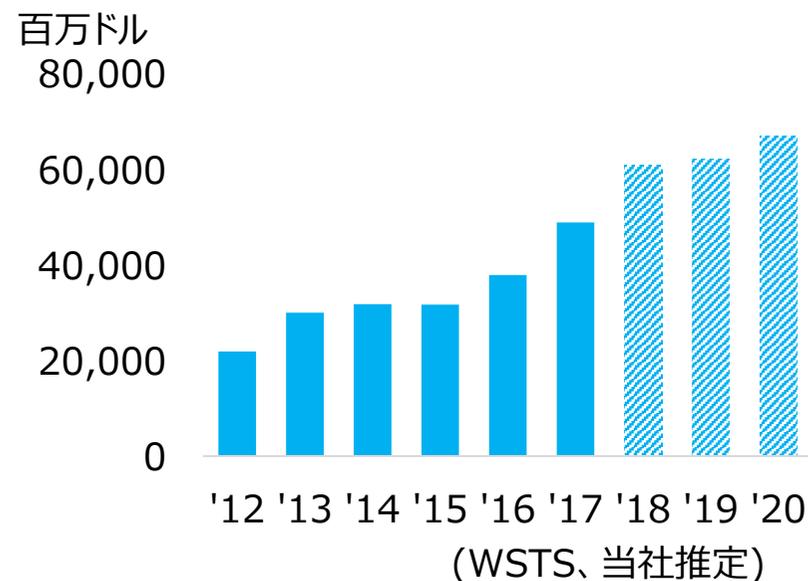
◆ 上期施策

- HBr **生産能力拡大(1.5倍)**
- CH₃F SKマテリアルズ**JV生産開始**
- 中国武漢 **営業・物流拠点稼働**

◆ 下期課題

- 需要拡大に対応した設備増強推進
- グローバル物流システム推進：
拠点間物流の最適化

NANDフラッシュメモリー市場推移



(武漢・営業物流拠点)

◆ 需給

- 国内成熟、ベトナム市場年率10%成長

◆ 上期施策

- ベトナム第2拠点稼働
⇒年産**20億缶**体制完工(6月)
- 国内：生産技術・印刷技術向上

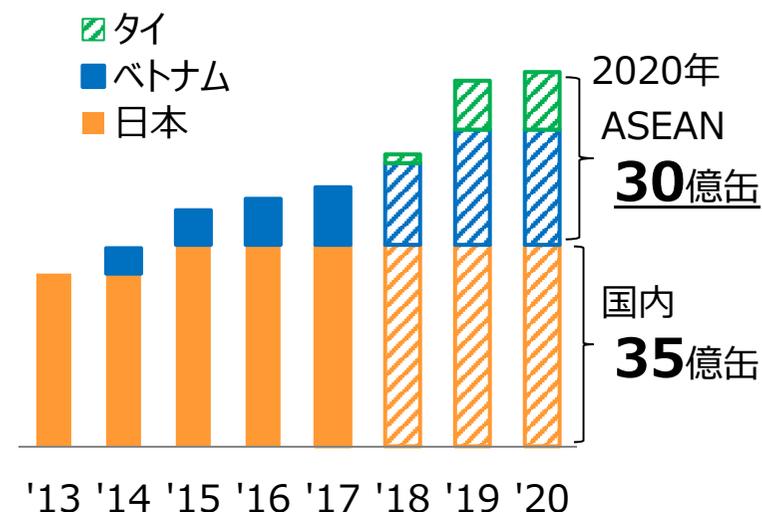
◆ 下期課題

- ベトナム・ダナン 垂直立上げ・フル稼働
- タイ・カラバオ社JV新拠点10月稼働
⇒ASEAN年産**30億缶**体制確立



ハナキャン社新工場(ダナン近郊)

当社グループアルミ缶生産量



◆ 需給

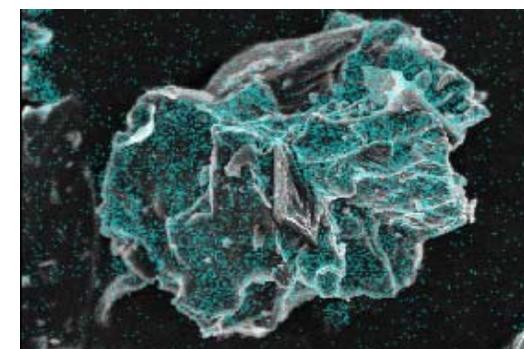
- 中国需要低迷は1Qで底打ち、2019年NEV規制導入を前に下期は成長路線に回帰・反転
- 欧州市場も需要拡大

◆ 上期施策

- 中国販売拠点設立
- VGCF[®]増強設備稼働

◆ 下期課題

- 導電助剤VGCF[®]：さらなる能力拡大検討
- 負極材：Si複合負極材サンプル評価推進
- アルミラミネート包材SPALF[®]：車載用販売拡大
- 全固体電池向け開発



Si複合負極材

◆ 需給

- SiCパワー半導体市場は1年前倒しで急拡大
電鉄インバーター、太陽光・風力パワー
コンディショナー + EV急速充電器・スタンド
- 高品質エピウエハーの需要拡大
⇒当社世界シェア **30%超**へ



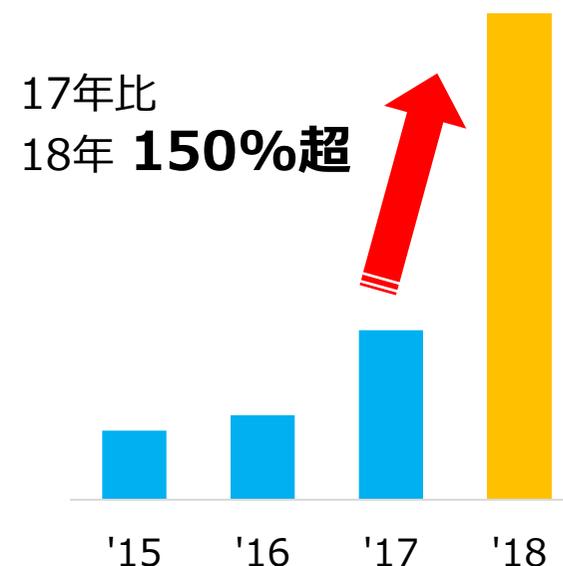
◆ 上期施策

- 新日鉄住金G知財・資産譲受
- 1次増強完了 月産5,000枚(18/4~)

◆ 下期課題

- 2次増強完了 月産7,000枚(18/9~)
 - 3次増強決定 月産9,000枚(19/2~)
- ⇒18年売上予想 **17年比2.5倍超**へ

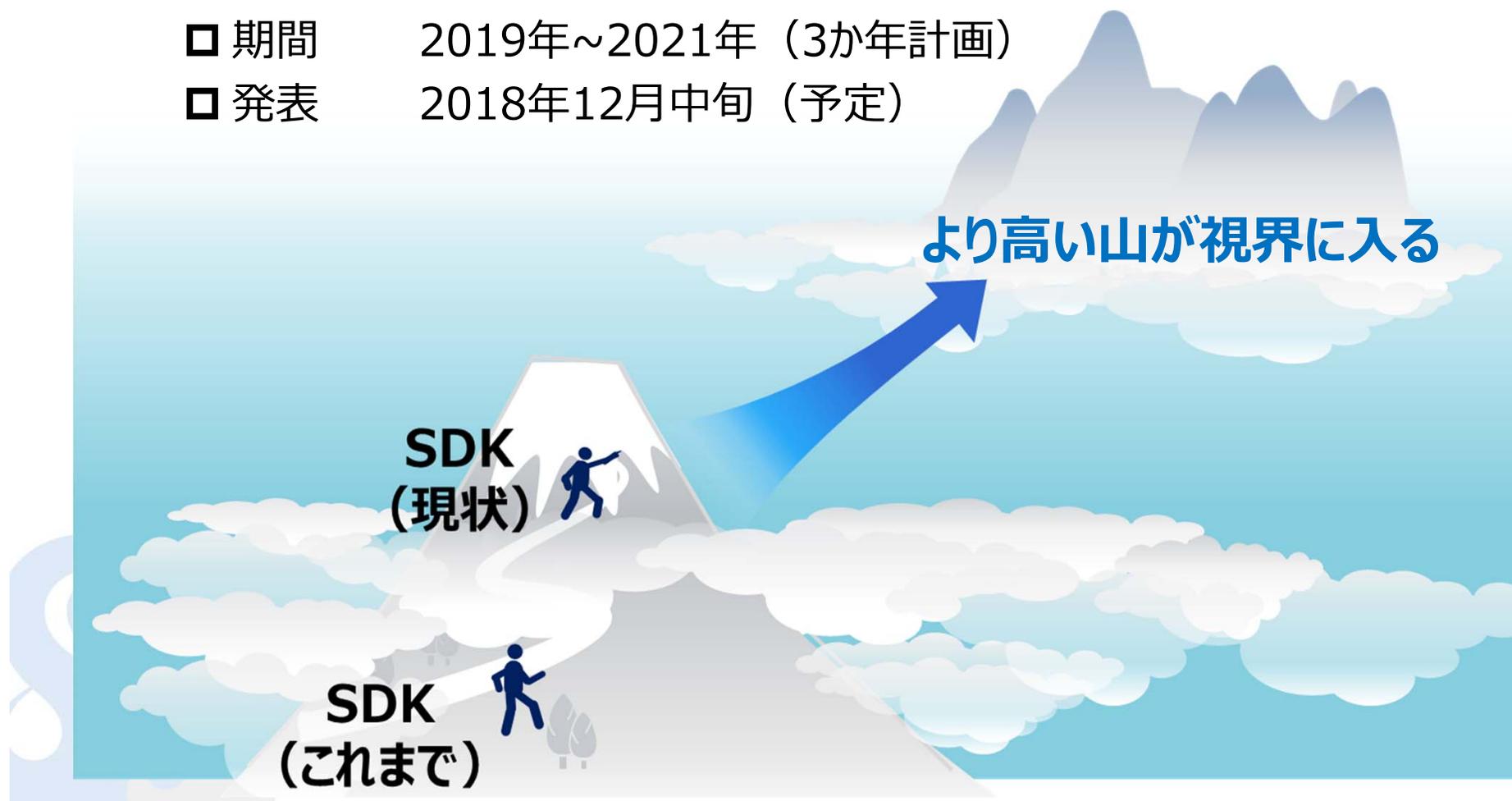
当社SiCエピウエハー売上規模推移



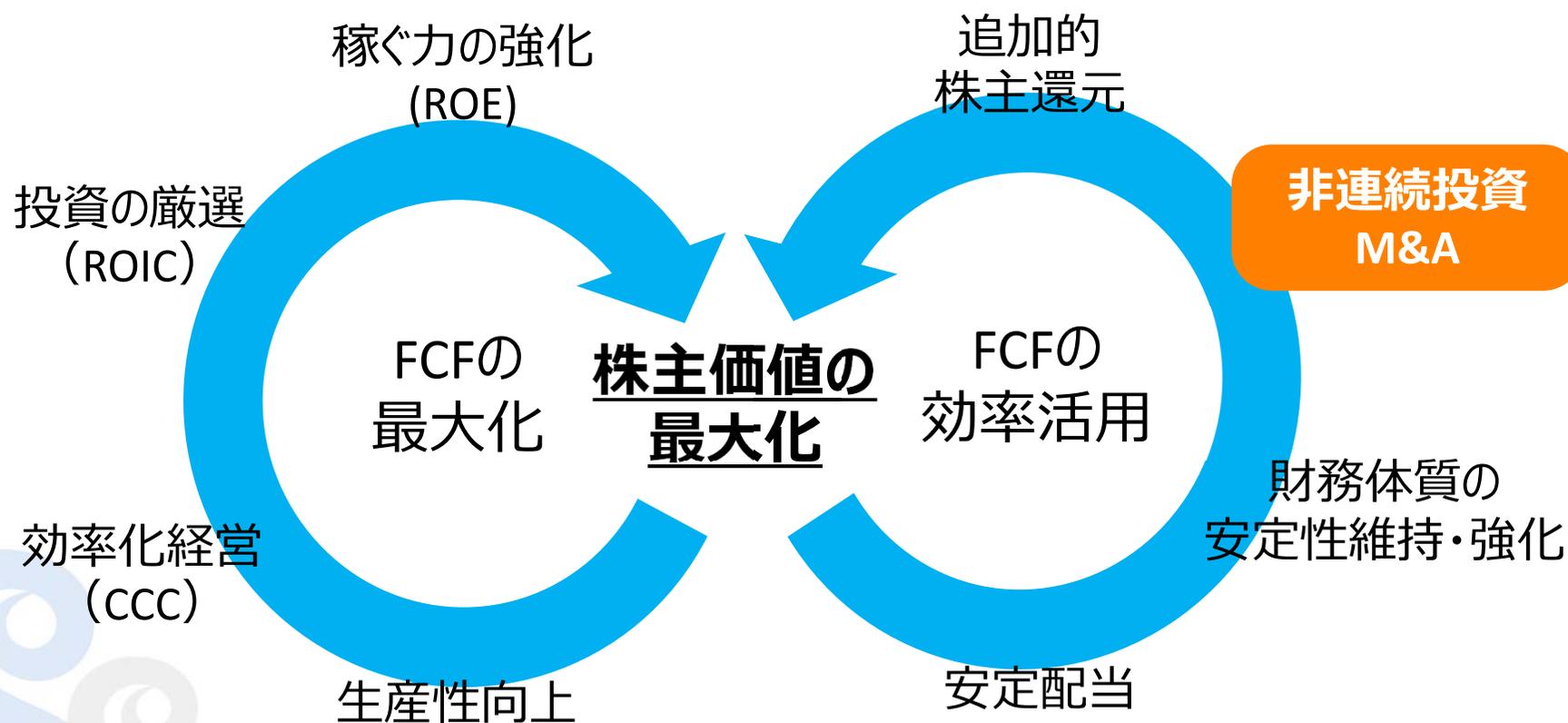
◆ 基本コンセプト

『**今がしっかり**していて、**将来に期待が持てる**昭和電工グループ』

- 期間 2019年～2021年（3か年計画）
- 発表 2018年12月中旬（予定）

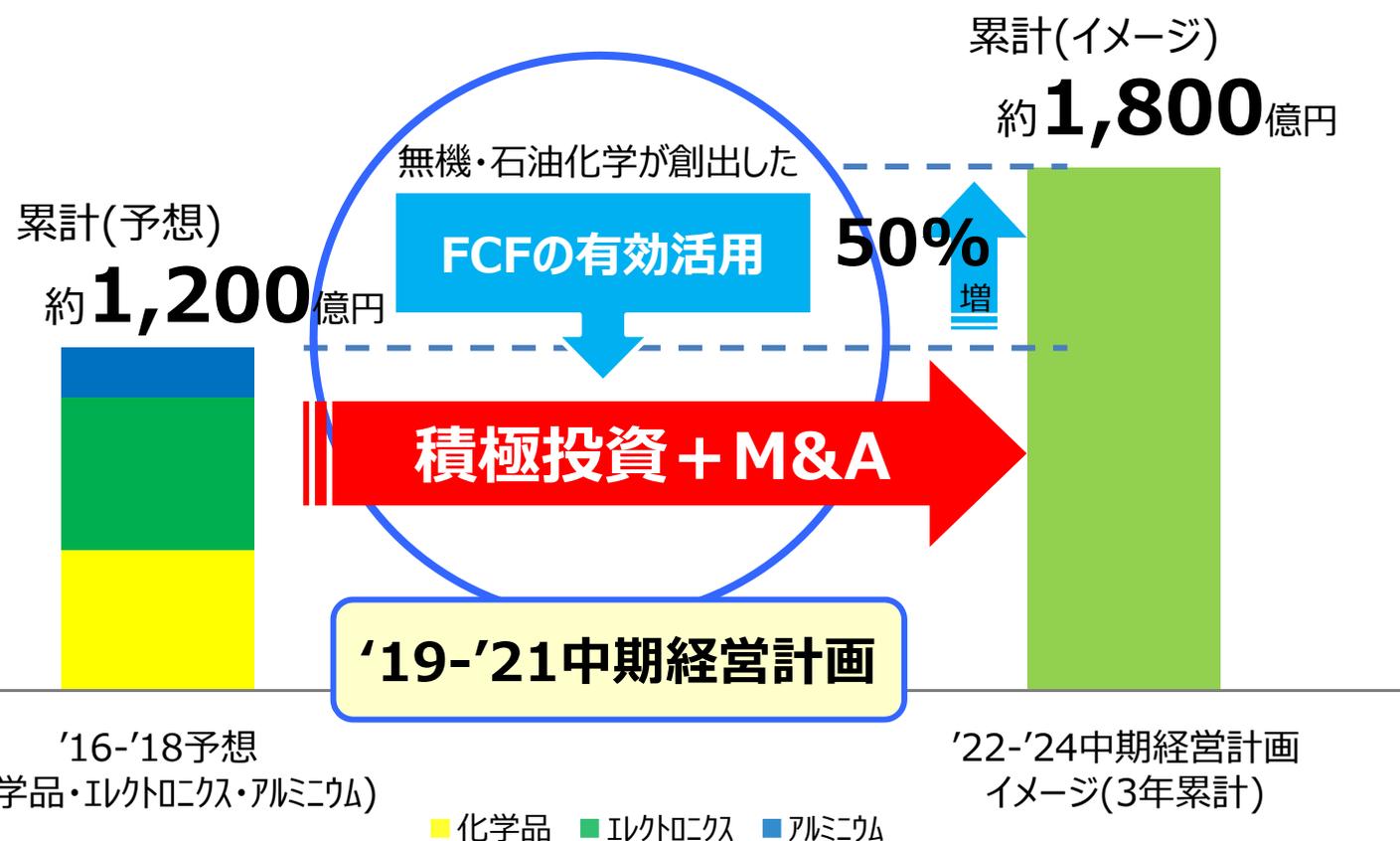


◆ キャッシュ・フローの最大化・成長投資へ有効活用 ⇒ 株主価値最大化へ



個性派事業の拡大

- ◆ 成長事業への積極投資 + 非連続施策の遂行
⇒ 無機・石油化学以外のセグメント収益力を向上、個性派事業拡大



- 本資料に掲載されている昭和電工の業績に関する予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。
- なお、法令に定めのある場合を除き、昭和電工はこれらの将来予測に基づく記述を更新する義務を負いません。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績に影響を与える要素には、経済情勢、ナフサ等原材料価格、黒鉛電極等製品の需要動向及び市況、為替レートなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。